

聖歌を歌おう会ニユース

39号 2017年9月24日発行

北関東教区「聖歌を学ぶ会」が9月16日(土) 10時半から15時30分頃まで大宮聖愛教会にて開かれました。

参加者は金澤克子、菊池晶子、小本杏子、(敬称略)、野澤みどり、小山聖ミカエル教会の女性、大宮聖愛教会の女性、土浦聖バルナバ教会のOさん、毛呂山聖霊教会のMさん、オルガン伴奏をNさん、会の進行を越智執事、聖歌の紹介を鈴木伸明司祭がしてくださいました。

聖歌集が発行されたのは二〇〇六年。すでに一年の歳月が過ぎようとしています。

質問「全五八〇曲の聖歌のうち、果たして何曲歌われましたか？」

教会によって差がありますが、年間一〇〇曲位歌われているようです。ということは全体の二割弱。五割くらいまで歌われることを目指していますと鈴木司祭。

今日の学ぶ会では次代を担う子どもたちが喜んで歌えるような聖歌にスポットをあてました。

聖歌集では「子ども」というトピックスを無くしました。聖歌集にある聖歌はどれも歌詞の表現が子どもにも無理のないように考えられていますから、すべてが「子ども」を対象として選ぶことが可能です。

本年一月一日から日本聖公会の陪餐の方法が変更されました。陪餐は堅信式を受けた人だけが許可されていますが、洗礼を受け、教区主教の許可があれば、陪餐を受けられます。

日曜学校から足が遠のいた子どもたちはどちらかという堅信の機会を失い、陪餐を受けることなく時が過ぎることもあります。

今回の変更は初代の教会のやり方にも近づいたこととなります。また堅信は自分の生きる社会で遣わされていくという意味をもちますから、陪餐が受けられたら、堅信を拝領しなくていいというわけではありません。(鈴木司祭のお話から) **本日鈴木司祭からご指導いただいた聖歌**

- 一五番 来る朝ごとに 朝日とともに
- 一六番 今日もまた 新しく
- 一七番 喜びの朝も 静かな夜にも

四三番 眠れる夜の間も 神は守り

二四三番 神の約束 果たされるまで

二五五番 心をこめて あがめます

二五八番 人の知恵も 言葉も超え

二五九番 さあパンを 分かち

二六〇番 主の食卓を囲み

二六八番 たたえよう 主のまつり

二七二番 小さなとき

もしび きらめく平和

昼食休憩

なごやかに他教会の方々とも触れ合うことができました。差し入れのチョコレートが美味しかったです。

午後の部

二八二番 罪に苦しむ 叫びを聞いた

三〇八番



賛美する喜びと 心からの祈り

三二五番 み手の中で すべては変わる

三六三番 ガリラヤの風かおる丘で

三七四番 心の扉をひらくと

三九六番 わたしたちはひとつ 愛のきず

なにより 四一七番

あなた達の平和の器にしてください 四四二番

ともにあつまる 語りあう ひびきあう 四八二番

いつくしみ深き友なるイエスは 四八三番

神の国と神の義を 五六一番

キリストの平和が わたしたちのこころの

*一節のみ歌った聖歌

四番、三四四番、三六一番、三六

七番、四一八番

*夕の礼拝 五七三番

今回の「聖歌を学ぶ会」は大宮聖愛教会にて二〇一八年一月十三日の予定です。(文責 野澤みどり)